

第1回新温泉町 望ましい教育環境整備検討委員会 議事録要旨

日時：令和8年7月3日（金） 13：00～16：00

場所：浜坂多目的集会施設 2階ホール

1. 開会と委員会の目的

【委員長副委員長の選任】

委員長に池田氏、副委員長に村津氏を選任された。

【事務局】

本委員会は、少子化に伴う教育環境整備について検討を行うものです。今年度は町全域を視野に入れるため、委員を24名に拡大し、3名の有識者にも入っていただきます。今年度は、第1回（本日）で皆様からの意見聴取を行い、第2回で中間報告書のたたき台の協議、第3回で中間報告書の最終検討という流れを予定しています。児童生徒数のデータや、町民・子どもを対象としたアンケートの計画もご説明します。

【教育長】

新温泉町では、少子化による子どもの急減がこども園から中学校まで押し寄せており、地域全体の大きな課題です。これまでの議論では「小規模ならではのアットホームな良さを守るべき」という声がある一方、「社会性を育むには一定の規模が必要であり、前向きな統合を急ぐべき」という声もありました。どちらも「最善の教育を提供したい」という熱い思いからの正しい意見です。

ですから、小規模のメリットも統合のメリットも、それぞれの課題を、すべて机上にフラットに並べつつ、子どもたちを主役に置き、公平に検証し、知見や思いを存分に出し合って議論していただきたいと思っています。

2. 意見交換

■ アンケートの目的と委員会のゴール

【委員】

質問なんですが、ここに出した意見は報告書にどう反映されるのでしょうか。それと、これから行うアンケートの目的と、この委員会の「ゴール」が何なのかを明確にしてほしいです。あと、次回以降は早めにスケジュールや資料を送付していただけると助かります。

【事務局】

いただいた意見はカテゴリー分けし、可能な限り中間報告書に反映していきます。アンケートは今後の施策の指針とするためのものです。また、この委員会のゴールとしては、教育・保育の観点から議論を重ね、あり方検討委員会の協議を引き継いだ統廃合や小規模特認校の是非などについて、来年度には結論を出すことをめざしています。次回からは、資料を早めに送付するようにします。

【委員】

アンケートって、「結果ありき」で作れてしまうんじゃないかという懸念があります。「最善の教育環境」という目標は現実的に作り得るのでしょうか。適正配置の議論では、費用対効果よりも福祉や文化の視点を優先すべきだと思います。

【事務局】

アンケートは、専門企業の助言や校正を受けながら客観的な視点で作成しています。「最善」は、「ベター」な着地点を探りつつも皆で素晴らしい「最善」の町をめざすという意味でご理解願います。費用対効果と教育のバ

ランスについては慎重に考えていきます。

■ アンケートの手法と子どもへの配慮

【副委員長】

アンケートの実施時期と、今日出た意見で内容を修正する余地があるのかを確認したいです。

【事務局】

町民向けは8月20日頃、小中高校生、保護者、教職員版は1学期中に実施したいと考えています。内容はほぼ確定していますが、本日のご意見を踏まえて修正を検討します。

【委員】

設問の言葉が分かりにくいのもっと簡単な言葉にしたほうがいいと思います。大人の議論だけでなく、生徒の意見を直接聞く場が必要だと思います。それと、回収率を上げるために区長への協力依頼など周知を頑張してほしいです。

【事務局】

設問の分かりやすさは修正します。子どもたちの意見については、アンケートだけでなく学校運営協議会の「熟議」などを通じて反映させる予定です。周知に関しても、広報やケーブルテレビ、紙媒体を併用して回収率を上げる工夫をします。

■ 人口減少を前提とした未来の議論

【委員】

児童減少に伴う「一人登校」の安全面や、スクールバスの利用基準も見直してほしいです。人口減少対策として、働く場の確保など町全体で取り組むべき課題はあると思います。

【委員長】

まさにそのとおりで、10年・20年前と比べるのではなく、未来に対する新たなあり方や、その中で最善・最適を議論していきたいですね。人口が減ることはほぼ確定しているので、過去と比較してネガティブになるのではなく、「減る前提での最適解」を議論すべきだと思います。

【事務局】

通学環境の変化などの課題はしっかり認識しており、来年度の結論に向けて総合的に検討していきます。

■ 町の教育ビジョンと将来の評価

【委員】

グラフを見て深刻な状況なのは分かるんですけど、中学を卒業して県外や私立高校に出る子も多いです。もっと地域の企業や卒業生と密に連携が取れたらなと。それと、新温泉町として「子どもたちにどんな風に育ってほしいのか」というビジョンや、5年後10年後にどう評価・判断するのかを教えてください。

【事務局】

評価の方向性や数値目標は、次回の会議でお示しします。小規模だからこそできる密な連携、例えばALTが幼少期から高校まで継続的に関わるこういったつながりもできています。また、同時進行で進めている「教育振興基本計画」の策定状況もお伝えしていきたいと思います。

【教育長】

学校では、認知能力だけでなく、「最後まで頑張る力」などの非認知能力も育む場だと思っています。ありがたい自分をめざして町外の高校へ行く場合もあると思いますが、たとえ町を離れても「心にな温泉町があって、いつか帰ってきて地元のために何かしたい」と思ってくれる大人に育てたい。そのためにも「個別最適な学びと協働的な学び」などもしっかりと進めていきたいです。

■ 議論の整理とハード面の条件提示

【委員】

この委員会の大きなテーマは「統廃合」なんだと感じました。そこで、議論を「ソフト」と「ハード」に分けられないでしょうか。「統廃合はしたくない」けど、「これだけ費用がかかる」といったことを客観的に議論するための資料があればいいと思います。

【事務局】

参考になる資料は出させていただきます。「統廃合ありき」では進めていませんが、子どもが急減する中、もう先送りにはできないという現実から目を背けず議論したいと思います。

【委員】

「小規模特認校」についてですが、対象は小・中・高のどれですか？ また、既存の学校が変わるのか、新設するのか知りたいです。

【事務局】

但馬の実態を踏まえ、もし町内でやるなら小学校を想定しています。ただ、実施には子ども会の関わり方をどうするかなど整理することも多く、地域の力やご理解が絶対に必要になってきます。

■ 地域教育のあり方と多様な視点

【委員】

新温泉町へは結婚を機に来たのですが、農業や漁業などこの地域ならではの体験教育が少し少ない気がします。もっと地域のふれあいを取り入れた方が地域愛が芽生えるんじゃないかと。あと、インスタなどの SNS で町の魅力を外へも発信してほしいです。

【副委員長】

保護者以上に地域を知らない若い先生が増えている現状があります。いかに地域の資源を学校で使えるかが、望ましい学校環境の大きな鍵になると思います。

【委員】

こども園の改修で木が切られたのを見て悲しくて、長くあるものは心に残るんだと感じました。でも、子どもが別の大規模園に行ったら「お友達がいっぱいいた！」と喜んでいたのを見て、大きな環境を楽しむ感情もあるんだなと。

妻もUターンで帰ってきましたが、ここでしかできない教育ができているかを感じることもあるようです。また、この会で決めたことを自分の地域に持ち帰って、みんなに理解してもらうのも私たちの一つの役割だと思っています。

■ 統合に対する意見

【委員】

東小は雰囲気良くって合併したくない人が多いです。今、6年生は2人しかいないですが仲はとても良い

です。でも、いずれは統合せざるを得ない時が来るんだろうなと感じます。「ここら辺の基準を超えたら仕方ないね」という話ができたらなと。合併してほしくないけど、仕方ない部分があるんじゃないかという葛藤の中にいます。

【委員】

「葛藤がない合意形成はない」と言われます。僕の意見が通れば、相手の意見は排除される。相手を尊重しているからこそ葛藤が生まれるんです。ここに参加している人はみんな、複数の考え方を心の中で戦わせているはずです。大事な人が傷つくかもしれないと考えながら、A案かB案ではなく、C案を出すのが合意形成だと思います。アンケートも「5年後の姿」を想定して取るべきです。

【委員】

温泉地域に限って言えば、こども園が1か所で一緒なのに、小学校で2つに分かれて、中学校でまた一緒になる。保護者の負担も大きいです。保護者としては、「統合した方がいい」という意見を汲んだ方向性でゴールを持っていった方が分かりやすいんじゃないかと思います。

【委員】

人口減少なんて何十年も前から分かっていたのに行政の対応が後手に回っているので、もう少しスピード感を持ってほしいです。それと、あくまで主体は子どもたちなので、「自分の村に学校を残したい」といった大人のエゴを押し付けないように進めていけたらと思います。

【副委員長】

以前、照来小に勤めていたので保護者の思いは分かります。ただ、意見が1回まとまると一気に方向性が進んでしまうんですね。親や地域が丁寧にメリットとデメリットを議論し、子どもに説明してあげること、仮に統合しても子どもたちが納得感を持って生きていけると思います。

■ 学校・園の意見

【委員】

東小の6年生2人は、和気あいあいとした雰囲気です。あの雰囲気は、大規模校ではできないなと感じています。一方で私自身、中3の時に統合を経験して最初は不安でしたが、結果的にいい経験ができました。小規模の良さも、統合の良さも、両面をしっかりと考えていくことが大事だと感じています。

【校長】

生徒数81名で、学習面は問題ありませんが、部活動は合同チームになったり募集停止になったりと、しんどい現状です。

先ほど「小学校で2つに分かれる」という意見がありましたが、中学校としては、違う育ち方をした子が来るというのはすごく意味があるんです。入学時に人間関係が一度リセットされる。幼・小・中ずっと一緒だと人間関係が固定されてしまうので、変わるきっかけになる面もあると思っています。

【校長】

全校生41名ですが、悲壮感はありません。150年以上の歴史に対する地域の思いも無視してはいけないと感じています。

ただ、統合を経験した学校の話を見ると、統合して「行く側」と「受け入れる側」に温度差が生じます。規模が大きくなることで、これまで協力してくれていた地域から「人数が多すぎるから体験の受け入れはお断りします」と言われてしまう危惧もあります。

【園長】

園児数は年々減っていますが、Uターンで戻ってくるご家庭もあります。少人数ならではの手厚い良さ

がある一方で、遊びから学ぶこども園では、同世代の子どもがある程度いることも成長には必要だなど思うところもあります。

【事務局】

すべての園長・校長先生が自分の学校園に誇りを持っているのは間違いありません。教育に不安を感じて町外へ出るご家庭が何に不安を持っているのかは調べていきたいです。また、0 歳児の保育環境をどうするか、大きな柱として協議していきたいと思っています。

4. 有識者による総括と助言

【オブザーバー】

私はかつて新温泉町に関わる仕事をしており、町域の広さと、地域ごとに多様な文化があることを実感しました。そのため、学校をどうしていくかは非常に難しい問題だと感じています。

議論のベースになるのは、以下の3点です。

1. 子どもにとって「何を学びたいか、この学校で良かったと思えるものは何か」
2. 保護者にとって「どういう教育を受けさせたいか」
3. 地域社会にとって「学校が存在する意味、なくなった場合の影響」

アンケートでは、家庭が学校に「何を求めているのか」を問う必要があります。一方、行政は「学校という場に何を提供できるのか」、それが「将来どういう町民を育成することにつながるか」を考えるべきです。

人口減少は避けられません。「ゆるゆると坂を下りる」ように、減る中でどうするかを早くからゆっくりに考えていく必要があります。また、他市町の統廃合の事例や、教員配置の法的な基準等の客観的データは提供されるべきです。

次回以降は、様々な思いがある中で客観的なデータに基づき、勝った、負けたという「二項対立」にならないような議論を進めていただければと思います。

5. 委員長所感・事務連絡・閉会

【委員長】

皆様の率直な声を伺い、これが単なる学校の問題にとどまらず、まちづくりに直結する重要な課題だと実感しました。子どもの減少は、地域を支える人材を失う悪循環になりかねません。だからこそ、「一旦覚悟を決めて、何が最善のあり方なのか」を地域の視点で捉え直す必要があります。

【事務局】

今後のアンケートについては、皆様の意見も考慮し、最終的には3名の有識者のご了解を得た上で実施させていただきたいと思います。また、協議が多岐にわたったため、有識者のアドバイスがあれば「分科会（部会別会議）」を開くことも検討させていただきます。

【副委員長】

時間が過ぎておりますので短く。このメンバーで、新温泉町にとっての「最善」を考え続けることができればと思います。

【司会】

3時間という長時間の会議、貴重なご意見をたくさんいただきありがとうございました。以上で閉会とさせていただきます。